

## ライフコース分科会 2014 年度活動報告

日本発達心理学会第 26 回大会においてラウンドテーブル「自己調節方略のライフコース (2)」を 2015 年 3 月 20 日 (9 時 30 分～11 時 30 分) に開催した。

自己調節方略は、成人期における適応に重要な影響を及ぼすと考えられているが、様々な形で検討されている。その主なものとして、選択・最適化・補償 (Selection, Optimization, and Compensation: SOC) モデル (Baltes, et al., 1999), 同化・調節の二重過程モデル (Brandtstädter & Renner, 1990), 一次的・二次的コントロールの最適化 (Optimization in Primary and Secondary Control: OPS) モデル (Heckhausen, et al., 1998) の 3 つのモデルが提出されている。本ラウンドテーブルでは、自己調節方略に関するわが国における実証的研究の知見も踏まえ、これら諸モデルの展開とその理論的統合の可能性について議論した。

具体的には、竹村明子先生 (仁愛大学) から「二次的統制と生涯発達」と岡林秀樹 (明星大学) から「年をとると人は幸せになれるのか? - 同化・調節過程の新たな解釈 -」についての話題提供を受け、佐藤眞一先生 (大阪大学) に指定討論をしていただいた。